

週日の説教

金 大烈 神父 2009年12月5日(土)

《大切なのは、量なのか、質か》

今日の福音(マタイ 9・35～10・1、5a、6 8)では、イエス様が弟子たちを派遣しましたことが話されています。イエス様は、あちこちでいろいろな仕事をなさり、弟子達にも同じことをするように、とおっしゃいました。そして、「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださるように、収穫の主に願いなさい。」とおっしゃいました。

さあ、『収穫』とは何でしょうか。収穫とは、「働いて得られる実り」のことですね。教会の歴史を見ますと、収穫を得ることに焦点を絞って、たくさんの人をカトリック信者にしようとしたことがあります。南米の国では、政治的な欲のために宣教の名を利用しました。ヨーロッパのカトリック信者は、神様のみ言葉を伝えることだから福音的なことだと思い、一緒に活動しました。一緒に活動したと言うより、活動させられていたのです。その結果、今では南米のほとんどの国がカトリックの国になっています。しかし、その過程、プロセスの中には、いろいろな傷みがあったのは確かです。

では、皆様に質問をします。教会の視点では、量が大切なのでしょうか、それとも質が大切なのでしょうか。質が大切だと思いますか。しかし、量の多い中から良質のものもできるのです。ということは、これはバランスがとても大事だということです。まず宣教の初めは、量を集めるために頑張らなければなりません。しかし、量を集めようとする人々の質が大事です。きちんと準備のできている人が、たくさんの量を集めることができます。その中から、可能性のある、良質のものが出るわけです。

では、カトリック信仰の立場から考えると『良質』というのはどういうことでしょうか。どのような信者を良質の信者というのでしょうか。理解してください。良質の信者というのは、喜びで生きる信仰者です。何があっても喜びで生きる信仰者です。‘信仰、信仰’と言いながら、悲しみばかり、心配ばかりならば、それは良い信者ではありません。良い信者ならば、どんな立場でも、どんな条件でも、いつも希望があるのです。イエス様という希望があるから、いつも喜びで何とか頑張ろうとするのです。

今日の福音を通して、『収穫』という単語から『希望』まで話しましたが、皆様にお願いがあります。何があっても、どんな恐れがあっても、キリストという希望によって生じる喜びとともにいることをいつも心に刻んでください。

ありがとうございました。